

Architectural work Award Winning Works



平成27年度 建築作品賞 受賞作品紹介

最優秀賞

「満蒙開拓平和記念館」



森の底から見えるひとすじの希望の光明・・・
今、伝えなければならぬ平和への願い。

先の大戦中、中国東北部であった悲し ■構造・意匠・機能・地球環境維持

優秀賞

「地域密着型 アイリス茅野」 複合福祉施設



心に響く終の住処

昔も今も茅野の生活を支える寒天づくり。特徴的で愛くるしい佇まいの寒天蔵がかつては地域内に林立していた。人々の心の拠所であったそのような場所性を取り戻し、山の上に立地した一般的な福祉施設を街中につくる事が今計画の重要なポイントであった。

茅野市市街地に建つ「アイリス茅野」の平面計画では、すべての主要居室を明るい中庭周りに配置することで、外からの騒音を軽減すると共に、中庭をめぐる回遊動線が各居室を有機的に結び、合理的な施設管理も可能とした。誰でも利用できる地域交流ホールは、中庭との一体利用も可能で、バリアフリーデザインかつ変化に富んだ空間をもたらすよう意図した。

寒天蔵のデザインを伝承させたシャープで軒の深い屋根は内を守り、豊かな生活の場を外へと想起させる。地域のシンボルとなる施設を現在、そして未来に残し、さらに居住者に必要とされる場としていきたいという事業主の熱意によって、このような施設の性格が築かれていった。

次世代を担う地域密着・交流の、新たな複合福祉施設のカタチとして、美しく澄んだ空気で満ち溢れた茅野の風景の一部として、多くの人々の心に響く施設であってほしいと願っている。

- ▶建設地:長野県茅野市宮川5778-1
- ▶構造・規模:鉄骨造3階建て、延べ面積2685.05㎡
- ▶工事期間:平成25年7月19日～平成26年3月27日

■設計

株式会社 倉橋英太郎建築設計事務所
RITARO KURAHASHI ARCHITECT & ASSOCIATES
〒399-0005 松本市野溝木1-1-30 TEL 0263-26-6765
http://www.kurahashi-a.co.jp FAX 0263-28-6765

■施工

株式会社 カネトモ
代表取締役 伊藤 進
〒391-0013 茅野市宮川7081 TEL 0266-72-2575
http://www.kane-tomo.co.jp FAX 0266-72-0599

建築作品選考委員会

- 委員長 柳澤 孝彦 (前柳澤孝彦+TAK建築研究所代表取締役)
- 委員 土本 俊和 (信州大学工学部教授)
- 中澤 栄二 (㈱エーピーシー一級建築士事務所代表取締役)



遠い心の記憶を未来へ語り継ぐ 人の心に通う建築空間

総評



平成27年度 建築作品選考委員会
委員長 柳澤 孝彦

作品選考委員会は、今回より土本俊和、中澤栄二、柳澤孝彦3名の新しい委員構成により行われた。

平成27年4月25日(土)午前10時より午後3時迄の5時間をかけて、池田修平会長長御立合いのもと、日事連建築賞の評価基準に基づき審議を重ねた。慎重審議の末、最優秀賞1点、優秀賞2点を選出した。応募作品数は8点で例年並み。会館記念館各1点、福祉施設3点、保育園1点、本社ビル1点、住宅1点であった。

最優秀賞に選出された「満蒙開拓平和記念館」は大戦中の大陸における数多の人の耐え難い声なき声、ようやく長い時間とそれを想う人の熱意を得て、人の心に通う建築空間として建設されるといったプロセスが設計を支えている。記念館は大屋根をコンテキストとした簡潔な構えを貫き、地域に美しい環境を立上げ、遠い心の記憶を未来へ語り継ぐという記念館が持つ本質的機能を際立てた優作として選考委員の注目を集めた。

優秀賞の「地域密着型複合福祉施設アイリス茅野」は茅野市区画整理が進む市街地に立地する地域密着型の福祉施設である。外観は地域の歴史的基調を継ぐ軒深い屋根のデザインをまとい、調和を計っている。特徴は機能構成の中央に取込んだ中庭が巧みな解決策となっている。その周辺環境を背にした内向きな空間性が、静かさや明るさを伴う開放感を内部に流通させて、回遊動線や機能空間相互の有機的連結、また施設内の多様な人々の交流を生むなど、独創的な計画にまとめ上げられている。

もう一つの優秀賞「児童養護施設「たかすやの里」」は保護者のない児童や虐待されている児童などを入所させる施設で、養護のいとなみをより豊かにするための多様なニーズを受け止めた施設構成となっている。前面に地域住民との接点を得られる広い交流室が管理諸室と共に用意され後方には独立したユニットで児童の日常生活の場が分散配置されている。児童が家庭に近い生活が経験できる木造の生活単位といわばソシアルな場との連携を子供たちが温かく見守られていることが実感できる生活環境として練り上げた計画密度には極めて高いものがある。

この度の選考を通じて高齢者の養護施設と一方で児童養護施設という二極の施設が日本の社会の現実を表徴していることを痛く心に感ずるとともに、いまや大戦後70年の節目に立つ全世界が過去を見つめいかなる未来への道を見出すかの岐路に立たされていることを思う時、評者に備する三つのプロジェクトの社会的意義の深さを改めて実感したのであった。この度の応募作品に注がれた設計者の英知に敬意を表すと共に貴重な建設の機会を与えていただいた建築主各位及び関係者に感謝の意をあらわし、創立40周年を迎える一般社団法人長野県建築士事務所協会の発展と会員各位の益々の御活躍を祈念し総評とする。

社会的意義深い 3プロジェクト